

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
 大阪市中央区道修町3-3-10
 大阪屋道修町ビル3F
 06-6232-1095

金融版新自由主義がもたらしたものの

11月2日(火)大阪府商工会館にて、第13回総会が開催され136名が参加しました。静岡大学教授(国際金融論)の鳥畑与一さんによる記念講演『金融版新自由主義がもたらしたもの』、世話人の松浦章さんから『損保3メガ体制による職場の現状』について基調報告がされました。総会の議事は全員の拍手で承認され、会員340名の更新と新会員のさらなる前進めざして奮闘することを謳ったアピールが確認されました。引き続いての居酒屋での懇親会には、鳥畑教授も出席され84名が参加し、全体として活気あふれる総会となりました。

大阪損保革新懇第13回総会記念講演

『金融版新自由主義がもたらしたもの』

講演要旨 静岡大学教授 鳥畑与一さん

今日、私は『金融版新自由主義がもたらしたもの』というお話をします。

百年に一度の金融危機から今、国際社会は何を学んでいるのか…4つにまとめられます。

- ①「強欲」な投機的利益最優先のビジネスモデルの破綻
- ②投資銀行の証券化ビジネスを中核にした金融システムとアメリカ経済の仕組みの破綻
- ③市場原理主義に基づく規制監督の自由化の失敗
- ④格差放任、消費者保護の「欠落」の結果としての危機

非常に短期的な目先の利益を追求する強欲なビジネスモデル、具体的には<様々なローンを買って証券化し売りさばく>このメカニズムが破綻しました。

それから市場原理＝「市場に任せておけばすべてうまくいくんだ」という考え方に基づいた金融行政が破綻したのです。

さらに、そのもとで消費者が食い者にされ権利がないがしろにされてきたことが今回の金融危機を引き起こしたということです。



市場原理が機能する前提というのはリスクをテイクする人、すなわち賭ける人(儲けかけている人)がその賭けが失敗したらその損失も自分が引き受けるんだというのが前提です。いろいろ儲けようと思って賭けをするんですが、損したらいやだから慎重に行動しますね。しかし、デリバティブとか証券化取引というのは、儲けと損失を切り離して、儲けだけ懐にいれて損失は他の投資家にどんどん転化する仕組みです。儲けをどんどん先に取って損失は社会に押し付ける詐術が「金融工学」として喧伝されたのです。

アメリカでは「今日の儲けは私のもの。明日の損失は社会のもの」というモラルハザードという道徳的退廃が生まれてしまったわけです。

さらにみなさん、マネーころがしで確かに短期的には金融機関のトップの人たちが高額報酬が手に入るかもしれませんが、でも、借りた人が破綻して、売った証券が紙くずになって、社会にものすごい損

害を与えます。破綻した金融機関を救う為に多額の税金を流し込みました。滅茶苦茶になった経済を救う為に、国が財政支出をして赤字財政に追い込まれたわけです。

クレジット・デフォルト・スワップという一種の保険商品があります。売った証券化商品が値下がりをするると儲かる保険を売ったのです。

クレジット・デフォルト・スワップは2000年頃には1000億ドルぐらいのマーケットの規模しかなかったのですが、リーマンショックが起きる直前には62兆ドルにまで膨れ上がりました。これはアメリカ国内の企業債務の4倍なのです。

普通、保険というのは、自分の財産とか自分の生命にかけるものですよね。

アメリカで保険の対象になる債務の4倍ものクレジット・デフォルト・スワップ保険がかけられたのは、なぜか？ネーキッド・クレジット・デフォルト・スワップというのがあるのです。ネーキッド、これが最初は何のことかわからなかったのですが、要するに他人の財産に保険をかけるのです。ある会社の借金とか財産とかに、それを保有していない人たちが勝手に保険をかけて、損失が発生したら、保険金を受け取る＝儲かるようなクレジット・デフォルト・スワップが自由にできたのです。なんら規制が無いのです。

これをAIGが先頭に立ってアメリカの投資銀行などが売りまくりました。本来であれば、保険ですから、保険の支払い準備金をコストとして保有しなければいけないのに、それをしませんでした。支払い準備金も積み立てず、こんなムチャクチャな保険商品売りさばいて、手数料だけ手に入れて、役員たちは正当な報酬ですとって高額収入をポケ

ットに入れたのです。危機が起きて保険の支払いが増えたら何にも手元にはないですよ。それで、AIGはあっという間に経営破綻に追い込まれていったわけです。

で、何が言いたいのか。みなさんには「釈迦に説法」かもしれませんが、保険って何のためにあるのでしょうか。

自分の生命や財産を守る、そのリスクに自分で保険をかけるのです。これが金儲けの手段になってしまいました。他人の生命とか財産に保険をかけて金を儲けようというのが、放置されて、はびこってしまったということです。その結果、クレジット・デフォルト・スワップがどんどん膨れ上がったのです。ウォーレン・バフェットという著名な投資家が、「金融版の大量破壊兵器である」と言いました。金儲けの手段に墮落した保険の究極的な姿かなと、私は思います。

今、国際社会は金融機能を社会的に復活させるために、試行錯誤を繰り返しています。オバマ政権は今年4月に「消費者保護を徹底する、略奪的金融をなくす、ウォールストリートのめちゃくちゃな金儲けのやりかたはもう許さない」という法律を通しました。

日本では、自民党時代に金融庁が基本問題懇談会をつくって、「金融危機から何を学ぶべきか」の作業を始めました。民主党になって「政治主導」といって作業をストップしてしまいました。ですから、日本の政治社会では、真面目な検討も総括もされていません。今回の金融危機・自由主義の破綻で被害を受けた、痛みを押し付けられている側＝私たちがきちんと総括をして、社会の力にしていかなければなりません。
(文責：事務局)



『三メガ体制で損保の職場はどう変わったか』

大阪損保革新懇世話人

(兵庫県立大学大学院博士後期課程)

松浦 章 さん

三メガ損保体制を歴史的に見る

三メガ損保体制がスタートし、上位三グループで90%以上のシェアを占めることになりました。この三メガ体制を歴史的に見る必要があります。

保険金不払い問題は、東京海上日動の言では、関東大震災や第二次世界大戦などに匹敵する「未曾有の危機」でした。

損保自由化の流れの中で生じた産業の劣化と歪みを本当に正さなければならない、その歴史的時期に選択したのが、新たな合併・統合でした。その判断の「是非」を問い続ける必要があります。

三メガ体制で職場は

東京海上グループ傘下の日新火災は、部長を半分に、課長を三分の二に大幅削減する方針を出しました。東京海上ホールディングスの利益目標必達が理由です。

損保ジャパンの櫻田謙悟社長は、就任直後のインタビューで「金融サービスの枠を超えて『サービス産業』への転換を図る」としています。

私は2年前、常務執行役員だった彼が「10年後には〈損保ジャパンは昔、保険会社だった〉といわれるくらいの変化を目指す」と言ったことを、「こうした経営者がいる限り、AIGの危機は他人ごとではありません」ときびしく批判しました。

三井住友海上グループの戦略は海外事業の拡大です。しかし、英子会社が360億円の損失を出し、金融庁から管理体制の甘さを指摘されています。

不払い問題やAIGの危機から学ぶべき教訓は、目先の儲け主義・株価至上主義に陥らない、ギャンブルには手を出さない、そして本業にこそ責任を持つということです。教訓は、まったく生かされておらず、利潤第一主義への回帰はさまざまな弊害を生んでいます。損保総研の濱専務理事がこう述べています。

「今、危惧しているのは、大学から『保険論』の講義が消えつつあることだ。業界は、目先の対応に追われ、損保理論の研究やアカデミズムへの関



心が薄れつつある。一方、大学でも学生の損保に対する興味は薄れてきている」

さらに危惧するのは、利潤第一主義が、産業の理念や社会的な存在意義、本質的な役割である「補償機能」の軽視につながっているのではないかということです。

損保産業の「役割」と「雇用責任」

8月に、国際的な調査会社が事故対応満足度調査の結果を発表しました。1位は2年連続でAIG、2位が日新火災、3位がソニー損保でした。考えるべきことは、損害サービスに携わる社員の、一人当たり担当件数がどうなのかという問題です。

徹底した効率化は、保険会社の利益拡大にはプラスであっても、契約者にはメリットとはなりえません。損保の社会的役割の発揮に、今、切実に求められるのは、まさに「雇用責任」です。

「雇用責任」をいかに果たさせるか

損保が「社会的責任」・「雇用責任」をはたすために何が必要か。

第一には、コンプライアンスを守ることです。各社とも「コンプライアンス行動規範」を大きく掲げ、法令遵守、高い倫理観を唱えています。従業員にそれを求めるのであれば、自らが、まず労働基準法をまもるべきです。

第二には、人間尊重の原則を貫くことです。三井住友海上の「CSRレポート」には「当社は、社員を『人財』と表しています。『働くこと』にかかわるさまざまな課題を、ともに解決していきます」と記されています。損保ジャパンは「人間尊重の精神の涵養に努める」と宣言しています。問題は、現実がどうなのかということです。

第三には、社会的役割を発揮しうるだけの人員体制を確立させることです。

さらに、損保の社会的役割は、代理店の存在を抜きに考えることはできません。1997年に62万店あった代理店は、2010年21万と、三分の一に激減しています。これではセーフティネットの役割を充分果たすことはできません。

雇用を破壊し、代理店を切り捨てて、利潤を確保しようとする経営者に経営者たる資格などないのです。

「CSRレポート」のとおり実践させる社会的な運動が求められています。大阪損保革新懇がその役割を果たしうるように奮闘したいと思います。

シンポジウム「成果主義人事制度と賃金」

職場革新懇連絡会初の試み

大阪革新懇職場連絡会主催のシンポジウム—大阪の主要産業における『成果主義人事制度と賃金を考える』が11月10日、天神橋「いきいきエイジングセンター」で開催されました。近年、日本の主要産業・大企業では成果主義人事制度を競って導入してきましたが、これらが今日の国民・労働者階層の格差と貧困のひとつの要因となっています。大阪の主要な産業と企業の成果主義人事制度はどのような実態なのか、それによって労働者の状況はどう変化したのか。これらは今まであまり取り上

げられなかったテーマです。今回初めてシンポジウムとして実態を交流しあい、この制度を見直す原動力となるきっかけを探ることを目的に開催されたものです。パネラーには東京三菱UFJ銀行・NTT・武田薬品・パナソニック・証券の大阪を代表する5つの産業から歴史・実態・問題点・闘いと展望などが報告されました。このシンポジウムに大阪損保革新懇から18名(全体で63名)の仲間が参加し、松浦世話人が会場から損保の成果主義賃金の問題点について発言しました。

12月8日はアジア太平洋戦争開戦日

講演

京都市立大学名誉教授(元学長)、
現在京都府立総合資料館館長
井口 和起さん

戦争と平和の東アジア近現代史
—現代日本の課題から考える

元ホームレスのピアニスト
合田 清さん

グループ、ジャズ、
ドビュッシー、
バロック他を弾く

音楽

講演と音楽の夕べ

12/8 [水] 午後6時開場
午後6時30分開会

エル・おおさか大ホール [府立労働センター]

参加協力費800円(学生・障がい者は無料)

主催/進歩と革新をめざす大阪の会(大阪革新懇)

連絡先/〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15大阪グリーン会館3階 TEL (06)6357-5302 FAX (06)6357-9410
E-mail:kakusin@dti.dion.ne.jp http://www.kakusinkon.com/

品川さんを囲むつどいに35名

10月23日(土)午後4時すぎからアイクルにて、6回目の「品川さんを囲むつどい」が35名の参加で開催されました。品川正治さんは来年に米寿を迎えますが、今「語っておかないといけない」と全国を駆けめぐり講演されています。24日に寝屋川革新懇での講演のために来阪されるのを機に実現できました。品川さんから現在の政治情勢と近況について45分にわたって語っていただきました。

最近の著書「手記 反戦への道」は30冊が、またたくまに売り切れました。手作り料理を囲んで、品川さんのサイン会や参加者との記念写真撮影など、楽しく和やかな夕べとなりました。

